



河村一



河村一

醫學博士河村叶一氏急性疾患ヲ得テ昭和六年八月九日五十二歳ヲ以テ溘然トシテ長逝セリ

君ハ京都帝國大學醫學部卒業後松岡道治教授ニ就テ整形外科學ヲ修メ後チ轉ジテ伊藤隼三教授ノ許ニ外科學ヲ研究シ臨床實地ニモ研究室裡ノ作業ニモ成シ遂ゲタルコト多々アリ業績ノ主要ナルモノハ本寶函第一卷第一號第三頁ニ列舉セラレタリ。

大正九年京都府立醫科大學教授ヲ拜命シテヨリ教授タルノ自覺ヲ以テ諸生ヲ薰陶シテ倦マズ木村・宇野・高折・來須諸博士等其門ヨリ出ヅ大正三年九月一朝教職ヲ辭シ一大抱負ヲ以テ京都市内ニ河村病院ヲ創設スルヤ非凡ナル努力奮勵ト天賦ノ健康ト相俟ツテ業務大ニ揚リ理想實現ノ域ニ近ヅキツツアリシガ不幸ニ監ノ犯ス所トナリテ遂ニ再ビ起タズ悼惜何ゾ耐ヘンシカモ多數ノ内科外科専門醫或ハ相踵デ或ハ相集リテ數次君ヲ診察シ或ハX線撮影ヲ爲シ或ハ試驗的穿刺ヲ行ヒナガラモ猶ホ且ツ化膿性肋膜炎(膿胸)ヲ誤診シテ肺炎ナリトナシ適當ノ治療ヲ施スニ至ラズシテ瞑目セシメシハ洵ニ臨床醫學ノ恥辱ニシテ誤診者ノ一人タル余ハ慚愧ニ堪ヘザル所ナリ

モシモ君ノ屍ガ斯學ニ向ツテノ最後ノ貢獻トシ
テ解剖臺上ニ運バレザリシナラバ此ノ誤リタル
診斷ト治療法トハ永遠ニ闇黒裡ニ葬リ去ラレタ
リシナラン 君ハ洵ニ一身ノミナラズ他ノ總テ
ヲ犠牲ニ供シテ以テ臨床家ノ慢心ト粗漏トヲ戒
メタルモノナリ 君ノ死ノ嵩高ナルヲ想フ時余
ハ感慨無量斷ジテ再ビ此ノ如キ誤診ヲ繰返ザル
ヘキコトヲ固ク自ラ誓フモノナリ 余ハ茲ニ多
年ニ亘ル日本外科學會評議員・國際外科學會日本
會員トシテノミニ止ラズ實ニ猪子・伊藤兩教授記
念會ノ創立者ノ一人トシテノ君ノ死ニ對シ哀悼
ノ誠意ヲ披瀝シ君ノ大理想ガ今後幾春秋更ニ何
人カニヨリテ必ズ實現セラルヘキヲ信ジテ疑ハ
ザル者ナリ 敢テ問フ君以テ瞑スル否ヤ

昭和六年九月二十二日

猪子・伊藤兩教授記念會

代表者 鳥 瀉 隆 三 謹 識